

碧い海をいつまでも

高浜漁業協同組合婦人部  
部長 松谷和子

### 1. 地域と漁業の概況

私たちの所属する高浜漁協は、能登半島の中央に位置し、古くから西能登と呼ばれています。能登半島国定公園の一つにも数えられる大島海岸も近くに位置しており、風光明媚な所です。

私たちの地区には高浜漁港と大島漁港とがあります。

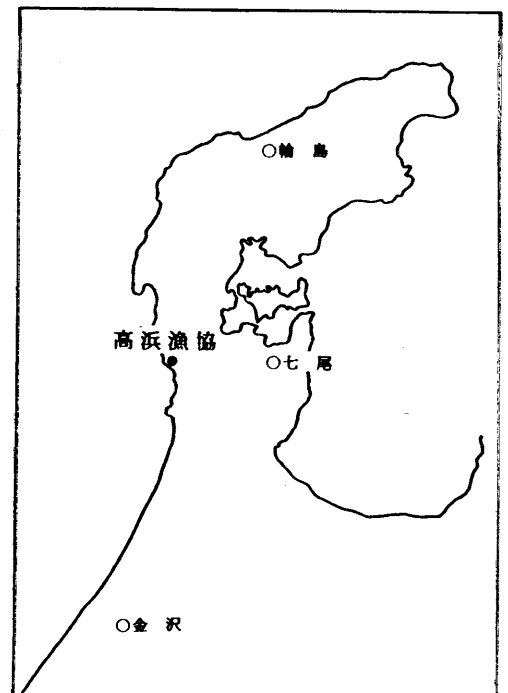
漁業は、古くから磯漁としてサザエ、アワビ、カキ貝等の貝類、海苔、若芽等の採草漁業の他、刺し網、一本釣り漁業を中心とした操業形態でしたが、昭和30年代前半にごち網漁業、更に小型底引き網漁業が操業することにより、急速に発展を遂げてきました。

組合員は、平成9年4月現在で、197名、内正組合員38名が所属しており、沿岸漁業が主体の組合です。

### 2. グループの組織と運営

漁協婦人部は、昭和56年に燃油の高騰、漁獲の不振と大きな曲がり角に直面した時期、家計を預かる婦人が結束し、明るい漁家経営に努めたいと、組合の指導のもと発足しました。発足時の部員数は106名、当時の部員も次第に高齢化してきましたが、部員数の減少はなく現在は130名の部員数となっています。

婦人部の活動は、組合事業の推進として、月一回の皆貯金の集金、海浜清掃、研修旅行、料理講習などを行っています。又、年一度の総会は部員の最も楽しみにしている日で、総会開催日の部員の出席率は90%以上の盛況です。この日は組合の職員も全員協力、参加してくれます。



### 3. 活動の課題選定の動機

合成洗剤が海や川を汚染し、魚貝類の幼稚仔育成にも悪影響を与えられることから、婦人部発足当時より漁協系統ブランド商品として発売された天然石けん「わかしお」の推進に努めてまいりました。しかしながら、石けん（わかしお）の使用は伸び悩み、婦人部の役員すら使用していない人が大半でした。海や川、それに加え人体にも悪影響を及ぼすことは分かっているにもかかわらず使用出来ないのか、どうして石けんを使わないのか、部員の意見を聞くことにしました。結果は次のとおりでした。

1. 匂いが悪い。
2. 家にたくさんお返しに頂いたものがある。
3. 若い人が使ってくれない。
4. 石けんは全自動洗濯機には向いていない。

等の意見が出て、その対策についてどうしたら良いか話し合いました。当時平成4年の秋の頃でした。

本組合の参事が、合成洗剤を使わない運動の一環として、洗剤のいらぬ<sup>たわし</sup>束子を作り、みんなに広めていました。そこで、私たち婦人部において「碧いきれいな海をいつまでも」のキャッチフレーズのもと、この毛糸の束子を使用して、合成洗剤を使わない運動を本格的に実践するという事で意見がまとまりました。

この毛糸の束子はアクリル100%の毛糸でないと効果がありません。編み物は手先の仕事だから高齢者のボケ防止にも役立ち、また、誰もが出来ることから束子作りを始めようと決まり実践に入りました。

#### 4. 実践活動状況及び波及効果

早速役員が組合に集まり、各家庭に眠っているだろう毛糸を持ち寄り、まずは<sup>てのひら</sup>大にガータ編みにして束子を数枚編みました。編み上げた束子を「碧い海をいつまでも、洗剤のいらぬ束子を使って下さい」のチラシをつけて、志賀町役場はじめ町内各所に配り、使用をお願いに回りました。130名の婦人部員には回覧板にてお願いしました。

当初は本当に洗剤がいらぬのかと不信そうだった部員も一人二人と使い始めてくれました。束子を使った部員からの口込みで、「洗剤のいらぬ束子」の使用が広がりはじめました。私たちは、もっともっと束子の普及宣伝に努めたいと考えました。

最近では、アクリル束子は全国的にも普及している様子で、書店の棚にも束子の編み方、使用例等の書いた冊子が発行されていて、部員の一人が書店より買い求めてきました。編み物好きな部員に一声運動が始まりました。組合に10名ぐらいの婦人部員が集まり、部員の「束子を使ってみて良かった」との意見や、「ぜひ沢山の人達に使ってほしい」との意気込みで買って来た冊子を見ながら各自好きな形に編みました。また、実践している人たちの経験を生かし、いろいろな形の束子が出来上がりました。集まった部員の夢がどんどん広がっていきました。「これは、台所、風呂、洗面所に使えるのでは？」と和やかに話を弾ませながらの束子作りとなりました。

まずは婦人部全員に使用してもらおうと始めましたが、こんなすばらしい束子を私たちの住む志賀町の皆さんにも使ってもらおうと考え、編めない人のためにも編み物好きの部員には各自、家庭において編んでもらいました。

また、7月の志賀町の町祭「やっちゃ祭り」は大勢の人出だから、束子と一緒に石けん（わかしお）の販売もしようと考えて束子作りに取り組みました。組合の職員にも仕事の合間を縫っては協力していただき、いろいろな形のたくさんの束子が集まりました。やっちゃ祭には、チラシもつけて販売しました。当日は雨のため思ったほどの人出もなくとても残念な結果に終わりましたが、その後「チラシを見ました。束子はありませんか？」と組合に問い合わせが入り、少しずつではありますが束子の使用が町の皆さんにも普及していききました。その結果、組合事務所にチラシと束子を置いてもらうことになりました。

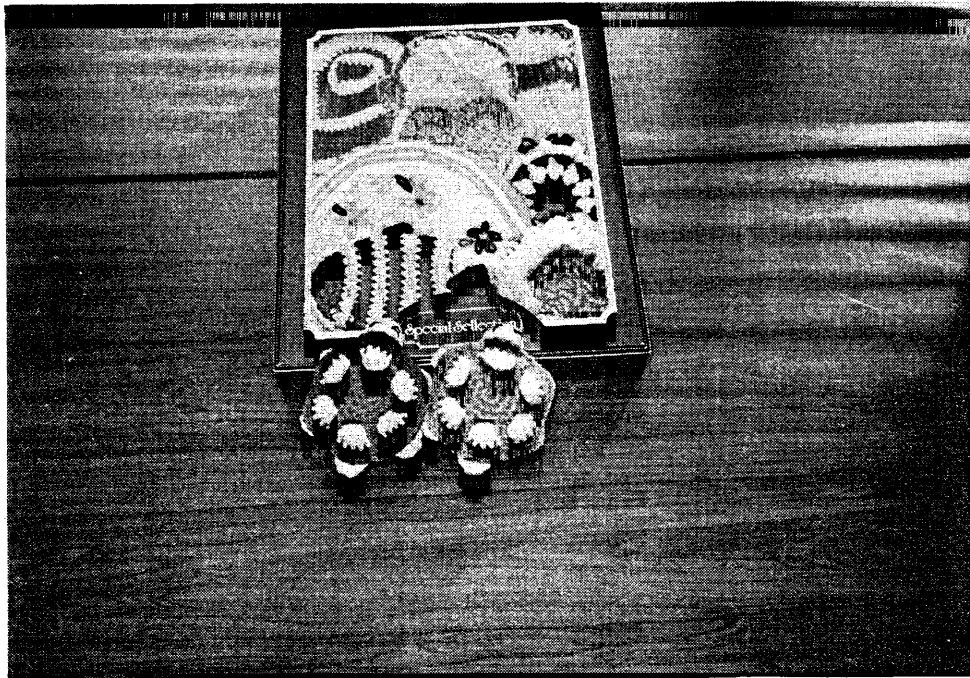
環境問題が叫ばれている昨今、「私たちにできることから」の合い言葉で始めた束子作りですが、「碧い海をいつまでも」の気持ちを大切に、小さな運動ですがこれからも続けていきたいと思っています。

消費者の皆様には、碧くきれいな海で獲れる新鮮な魚介類を味わって頂きたい、また、碧く澄んだ海で潮風をいっぱい吸っていつまでも健康であってほしいと私たち漁協婦人部は願っております。

#### 6. 問題点と計画

本年度の総会には、アクリル100%の束子とともに、今一度、わかしお石けんの販売に力を注ぎたいと思っております。また、部員の高齢化ですが、ボケ防止とりハビリにも良い編み物である束子作りに取り組み、志賀町だけでなくたくさんの人に束子の使用を広めていきたいと思っております。今後とも、まだまだ若さを強調して、部員全体のアイデアを生かし楽しく活気ある婦人部活動を続けていきたいと思っております。

本年1月の重油事故時の婦人部員の活躍には頭の下がる思いでした。毎日毎日心配だと浜に足を運ぶ婦人部員、海浜の重油回収、炊き出しにと婦人部員が一体となって事を運びました。又、この重油事故において改めて海の大切さを実感いたしました。この碧くきれいな海をいつまでも守るためにも今後とも婦人部の強い結束のもと環境問題に取り組んでいきたいと思っております。



婦人部員のアイデアの束子のギフトセット



環境にやさしい毛糸の束子を組合事務所に展示

## 環境にやさしい毛糸の束子

### 洗剤のいらない束子について

A子さん

友達に勧められて2、3年前からアクリル毛糸で編んで使っています。  
洗剤も油の多いとき以外はつけません。

B子さん

私はモップ用に大きく編んで床掃除にも使っている

C子さん

私はお風呂、洗面所、トイレ掃除と何枚も作って使っているわ。  
アクリルの束子はべとつかず気持ちがいいと思う

D子さん

高浜漁業協同組合の婦人部の方が海をきれいにの合い言葉で、ずいぶん前からアクリル束子の普及に務めている知っている。

海や川、自然にやさしい束子を使ってみてください

高浜漁業協同組合婦人部

束子のPR用チラシ